

注記

I. 重要な会計方針

1 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

- ・減価償却の方法
定額法による。

- ・主な耐用年数

建物	3～50年
構築物	3～60年
機械及び装置	5～42年
器具及び備品	3～15年

(2) 無形固定資産

- ・減価償却の方法
定額法による。

2 引当金の計上方法

(1) 退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、当年度の退職手当の期末要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 賞与引当金及び法定福利費引当金

職員の期末・勤勉手当の支給及びこれに係る法定福利費の支払に備えるため、当年度末における支給（支払）見込額に基づき、当年度の負担に属する額（12月から3月までの4か月分）を計上している。

3 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式による。

Ⅱ. セグメント情報の開示

1 報告セグメントの概要

工業用水道事業会計は、渋川工業用水道及び東毛工業用水道を運営しており、各工業用水道ごとに運営方針等を決定していることから、それらの2つを報告セグメントとしている。

なお、各報告セグメントに属する事業の内容は以下のとおりである。

セグメント区分	事業の内容
渋川工業用水道	前橋市、高崎市、渋川市、吉岡町の7社7事業所への工業用水供給事業及びその附帯事業並びに工業用水に関する調査事業
東毛工業用水道	伊勢崎市、太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町の86社94事業所への工業用水供給事業及びその附帯事業並びに工業用水に関する調査事業

2 報告セグメントごとの営業収益等

当年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	渋川工業用水道	東毛工業用水道	合計
営業収益	529,157	1,147,611	1,676,768
営業費用	602,632	1,023,186	1,625,818
営業損益	△ 73,475	124,425	50,950
経常損益	△ 25,896	209,112	183,216
セグメント資産	6,893,776	16,628,091	23,521,867
セグメント負債	4,406,669	10,690,843	15,097,512
その他の項目			
減価償却費	236,494	593,671	830,165
特別利益	28,211	88,886	117,097
特別損失	14,289	14,545	28,834
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	16,978	27,123	44,101

（注） 1. 本局の収益、費用、資産及び負債は、各工業用水道に配分している。

Ⅲ. その他

- 1 退職給付引当金の目的使用による取崩しについて
 当年度において、退職手当として22,977,570円を支給するため、退職給付引当金22,977,570円を使用した。